

4-1-6 第二専門診療部

4-1-6-1 外科

1. スタッフ

- (医 長) 本名 敏郎、黒田 達夫
(医 員) 森川 信行、北野 良博、淵本 康史、寺脇 幹
(レジデント) 田中 圭一郎、川島 憲子、町頭 成郎
(異 動) 中野 美和子(平成 15 年 6 月 退職)
田中 潔 (平成 16 年 3 月 退職)

2. 手術件数など(平成 16 年 3 月 日本小児外科学会施設認定委員会報告)

指定疾患総手術件数	636 件
鼠径ヘルニア手術件数	222 件
新生児症例件数	64 件
新生児手術件数	56 件

3. 活動の概況

開院より 2 年目を迎えた今年度は、新生児外科症例、悪性腫瘍症例などを中心に先端的な手術例の増加をみた。

重症胎児水腫症例に対して、胎児治療科、産科、麻酔・集中治療科、特殊診療部などとの全病的な連携のもとに本邦初の胎児開胸手術を施行した。手術は無事に終了し、一次的に胎児心拍など著明な改善を認めたが、術前からの心不全などの悪条件により最終的に救命はできなかった。しかしながら一施設のみならずわが国の胎児外科にとって重要な手術症例として特筆される。

悪性腫瘍に関して、当院で国立小児病院時代より行われて来た術中開窓照射併用の腫瘍全摘術の成績が Journal of Pediatric Surgery 誌上に発表された。照射部局所再発の極めて少ないことから、術中開窓照射併用手術をわが国の神経芽細胞腫治療のガイドラインに盛り込むことが検討されている。

さらに腎臓移植に関しては生体腎移植症例が開院以来今年度までで 6 例あったほか、腎移植ネットワークからの献腎移植が始まり、特異な分野である小児腎移植の拠点施設の一つとして歩みだしつつある。

鏡視下手術は Nissen 噴門形成術を中心に脾摘、胃固定などの腹部手術、Nuss 法の補助、気胸など胸腔鏡下手術のほか、急性虫垂炎のような緊急手術まで手術適応が拡大された。